

## 新任委員紹介



ASBJ 委員  
(旭化成株式会社 経営管理部顧問)

よしだ みのる  
吉田 稔

昨年 12 月から企業会計基準委員会 (ASBJ) の非常勤委員に就任しました吉田稔と申します。

現在、旭化成株式会社の経営管理部の顧問として、経理関係業務全般にわたる助言と支援を職務といたしております。また前職が内部監査部門長の職務でありましたので、リスク管理業務全般の助言も職務としております。

ASBJ の委員就任は初めてですが、昨年 12 月まで財務会計基準機構 (FASF) の基準諮問会議の委員を務めて、ASBJ の職務遂行には関わりを持っていました。

会社業務の経験では入社時に経理部配属となり、工場地区勤務を含め、一貫して経理関係業務を担当して来ました。経理部門の責任者を 15 年間ほど務めた後、直近の約 8 年間は内部監査の部門長を担当して来ました。

会計基準の新設・改訂への関わりでは、ビッグバン直前から経団連・企業会計部会等での活動を中心に、当時の主要な会計基準改訂に関わる議論には主体的に参画して来ました。

開示制度に関しては、金融審議会のディスクロージャーワーキンググループの委員として、諸種の開示制度改訂の検討や報告書の作成に参加しました。特に任期終盤では内部統制報告制度の導入議論に参画し、その後、企業会計審議会の内部統制部会・作業部会委員として「実施基準」の作成に参画いたしました。

企業会計基準ではありませんが、総務省の行政管理局の委嘱により、独立行政法人の会計基準と監査基準の作成に設定時から参加をいたし、その後の改訂業務にも参画しています。

会計基準は投資家にとっての重要な情報を提供するインフラではありますが、同時に企業経営にとっても国際間競争を勝ち抜き、持続的成長を実現するための重要なツールであります。日本経済全体にとっても、企業群が国際間競争を勝ち抜いていくことは今後も不可欠であると考えます。ビッグバン以降の状況を振り返りまして、その間日本の会計基準は著しく改善されて来たと思えます。大半の企業はその会計基準を生かして、バブル崩壊後に一貫してバランスシート改善に取り組み、筋肉質で効率的な経営への脱皮を図りました。今日、海外企業群の一層の成長と新規のライバ

ル登場により、一段の成長が求められる状況にありますが、日本の企業群のバランスシートが世界でも相対的に健全性を確保できている点は、近年の日本の会計基準のあり方も寄与したと評価しています。

国際財務報告基準（IFRS）の優れている点を学び、取り込みつつ、かつ建設的な提言は堂々と実行し、日本の企業群の成長を通して、日本経済の改善に資することも忘れずに、会計基準開発に取り組んで行きたいと考えます。ご教示、ご指導をよろしくお願い申し上げます。